

此の斷簡を摩尼教徒の祈願文の殘卷であると斷ずるに就いては、下に譯出する通り、Bの第19行に *mani burYan* 即ち摩尼神といふ文字が存殘し、第13行から第15行にかけては、「總べての人<sup>に</sup>此の善行〔によりて……〕となれ、總べての〔危害に於て〕擁護せよ」云々とあるのを見れば充分であつて、從來發表された此の種の文書と同様の形式を備へたものである。

此の祈願の文句以外即ちAの全部とBの第11行迄とに記されてあるのは、祈願者からその擁護を神に祈請された人々の名と官號もしくは稱號と見るべき語の列記であり、而して或る人々に關しては、其の出身地の冠されたものもある。今先づ兩斷簡の音譯を掲げ、次にこれ等の名稱について、順次説明を試みて見よう。

(A)

1. *tiräk oʻšayʻu, qamllʻy küdägümüz*
2. *oʻyul inanč tiräk kändč, kändčäk*
3. *bars inanč tiräk čäčäki, qivir*
4. *ykän svik sängün alig(?) o šada*
5. *.....alp(?) urungu tigin.....*
6. *küdə[gü(?)] [a][p](?) [sä]ngün.....gsärä.....*
7. *inanč.....bügqa(?).....*